

## 移民国家論の金字塔

坂中英徳

### 鬼より怖い官僚

入国管理局の役人時代、私は不法外国人や外国人を食い物にするブローカーなどから「鬼より怖い官僚」とおそれられていたという話だ。異論はない。公正な出入国管理を行うことを定めた『出入国管理及び難民認定法』に基づき、不法入国者や不法滞在者に対して厳正な処分を行ったのは事実である。

そんな入国管理一辺倒の人間がいきなり1000万人の移民の受け入れを言い出したのだから驚かれた人もいたと思う。一方で、出入国管理秩序を守るため厳格な入国管理に努めた元入管職員の政策提言ということで、政府部内において信頼できる移民政策だと真剣に受け止められた面もあるようだ。

「『ミスターイミグレーション』と称せられる論客がいうのだから信用できる」「なるほどそういう考えもあるのか。説得力がある」といった感想が寄せられている。

来るべき大量移民時代の日本は、移民受け入れ計画にしたがって正面から入る移民を歓迎する一方で、テロリストや犯罪者など裏門から潜り込もうとする外国人を徹底的に取り締まらなければならない。

入管問題に携わった元行政官としていちばん気がかりな点は、巨大人口と経済成長を背景に就労人口を押し出してくる中国の存在である。古巣の入管が全力で中国人の入国問題に対処するようお願いする。

出入国管理が十分機能しなければ、移民政策に対する国民の理解も協力も得られない。もし日本人の外国人像がテロや犯罪といった負の要素と結びつけば、移民の受け入れは頓挫してしまう。日本人と外国人が共生する社会も実現できない。

国民の外国人イメージを悪化させないためにも、不法外国人の入国・在留を許してはならない。

出入国管理の関係部署がよく職責をはたし、移民教育重視の人材育成型移民政策による移民の受け入れが順調に進めば、「いい外国人が大多数で問題のある外国人が少しばかりいる」というあたりで国民の外国人観は落ち着くであろう。そこまでいけば、「世界の多彩な顔ぶれがそろった多民族国家はエキサイティングないい社会」という国民合意が形成される日も遠くないだろう。

反日外国人の入国は阻止できる

移民問題で最も問題になるのが「人口の多い国の人間ばかりが来たらどうするのか」という点である。だが、移民政策に踏み切ること、むしろ現在すでに起こっているような問題——たとえば大勢の中国人の流入のような国別の偏りを正すことができる。

まず政府は世界各国の国民を公正に入れることを移民政策の基本にすえ、移民の受け入れを円滑に進める「移民協定」を多数の国と締結する。そのうえで、「日本の移民政策は公平を鉄則」とすることを「移民法」（新法）に定めるのだ。

そして中国人が在日外国人の圧倒的多数を占める状態を速やかに改める。中国人一辺倒の移民政策は国民の反発を買う。日本の外交上・安全保障上の利益を損なうことは論をまたない。

人材需給のひっ迫状況、受け入れ体制の整備状況、移民の社会適応の進捗状況、日本を取り巻く国際環境、移民政策に寄せられる国民の意見などを総合的に勘案のうえ年次移民受け入れ計画を立てる。

移民受け入れ計画は内閣が策定し、国会の承認を得るものとする。計画の策定に当たっては、国民の好感度の高い移民の出身国に配慮し、年間の国籍別移民受け入れ枠（一国の上限は2万人）を決定する。

各国の移民をバランス良く入れる移民政策を実施すれば、国民の多民族化が進み、社会の多様性はいっそう高まるだろう。

もう一つ、国民が強い懸念を抱いている移民問題がある。反日外国人の入国を規制できるかという問題である。

韓国では戦後一貫して、国民総がかりの激しい攻撃が「親日家」の人びとに対して向けられてきた。親日家の政治家や知識人は「売国奴」のレッテルを貼られ、沈黙を強いられ、社会から消えていった。

その結果どうなったか。今日の韓国は大統領以下全国民が「反日家」のかたまりの様相を呈している。親日家は見る影もない。国全体が反日売り物にする異様な国といわなければならない。

韓国人は「反日」のスローガンでしか一つにまとめられない国民なのだろうか？ 韓国が反日の世論しか成り立たず、決して親日家が育たないという国の体質を改めない限り、日韓の真の友好関係は永遠に築けない。

世界各国の移民政策を見ると、国民と移民との関係や外交関係などを総合的に考慮して国籍別の受け入れ枠を決定している。反日思想に凝り固まった移民の入国は許さない方針をとれば、日本の移民政策は韓国、中国のように反日教育に熱心な国からの移民を厳しく制限するものになる。少なくとも、今のような「管理なき外国人の流入」はなくなる。

移民政策を推進する私に対し「売国奴」などのヘイトスピーチもあるが、むしろ量的規制を的確に行える移民法制を確立することで、反日的意志を持って日本に乗り込もうとする「反日外国人」の入国を阻止できると明言しておく。

## 人口崩壊時代の主役は移民

ここ最近の世の中の動きを見ると、政治家、官僚、学者、研究者、ジャーナリストの間で「移民」という言葉が市民権を得たようだ。人口危機の深まりに伴い、「外国人労働者」から「移民」に外国人政策の主役が交代した。

2004年2月、国会で移民政策をめぐる議論が始まり、内閣府は「100年間で2000万人の移民を入れる」未来構想を発表した。移民国家をめぐる論戦の火蓋が切って落とされた。

私はこの6年間、一般社団法人移民政策研究所の所長の肩書きで、「移民」「移民政策」「移民革命」「移民国家」「日本型移民政策」「移民1000万人構想」「人口崩壊と移民革命」などの用語を駆使して論文・著書を多数書いてきた。2013年4月からは連日、インターネット上でもこれらの言葉を使って移民国家構想を縦横に論じている。内外のメディアの取材に対しても同じ姿勢で臨んでいる。

なぜ「移民」でなければならないのかとよく聞かれる。私の答えはいつも同じだ。「地球上から日本人が消えてゆく日本が受け入れるべき外国人は移民」というもの。

国民が激減してゆく日本には、国民の増加に直結する移民以外の選択肢はあり得ない。移民は国民と同じく、生活者、勤労者、納税者である。移民は社会の一員として、地域経済、社会保障制度、地域社会の安寧秩序を支えてくれる。

入国時の移民の大半は若い留学生を予定しているから、移民どうしの結婚はもとより日本人との結婚も多数にのぼるだろう。日本人と移民の結婚が増えれば、二世が続々誕生し、出生率の向上に貢献する。

その一方で、外国人技能実習制度を柱とする外国人労働者の受け入れには強く反対する。およそ外国人労働者は日本に永住する外国人でも将来の国民でもない。つまり、いくら外国人労働者を入れても人口問題の根本的解決には何の役にも立たない。

それどころか、日本版奴隷制度の下で酷使される技能実習生の存在は国民の外国人観をゆがめ、移民政策の導入による人口問題の解決の道を閉ざすことにもなりかねない。それを温存すれば移民国家ニッポンの健全な発展は望めない。人道に著しく反する奴隷制度の即時廃止を求める。

人口崩壊の危機が刻々迫る日本に必要な外国人は日本に永住する移民だ。「永住者」という入管法上の最高の地位を得た移民は子々孫々日本に住む決意で仕事に励む。日本人との良好な関係を結ぶことに努める。日本社会に速やかに溶け込むべく努力する。そのうち移民の大半が日本を好きになり、日本国民になる。

欧米諸国の外国人政策の歴史を概観すると、最初は奴隷として、その後は外国人労働者として入れてきた。今日の世界では、移民の地位を保障することが正しい外国人政策とされている。

移民として迎えることによってはじめて、外国人教育、国民との共生、社会統合、家族

の結合、社会保障制度の適用が視野に入ってくるからだ。

### 世界に通用する移民革命思想

たとえば、日本型移民国家構想のような日本で誕生した国家ビジョンが世界の知識人の注目を浴びるのは非常に珍しいことではないか。

近年、海外の日本学の専門家やジャーナリストの間で、世界の先頭を切って人口崩壊の時代に入った日本の移民政策への関心が高まっている。私のところを訪れる世界の知識人は、人口崩壊が目前に迫っているのに移民鎖国のイデオロギーをかたくなに守っている日本を世界七不思議の一つだという。そのうえで、日本の移民開国を待望する世界の世論を背景に、私の立てた移民国家ビジョンに注目する。

世界の知識人は私の移民政策理論のどの部分に最も関心があるのだろうか。外国の知識人と討論した感想を述べると、日本民族をはじめ世界の諸民族がうちとけて一つになる「民族の融和」を主張している箇所ではないかと推察する。

世界の移民政策の専門家は、一般に、人類の多様性を強調し、「多文化共生」を目標に掲げている。それに対して私は、人類の同一性を強調し、それよりも一段と高い目標の「人類共同体」の創造をうたっている。

人類は多様な人種と民族に分かれているが、人間の大本は一つであるから、人間の根の部分の文化と価値観は共通するところが大部分である。人類は生物分類学上は同一の種であるから、相互にコミュニケーションでき、相互に共感し、相互に理解できる存在である。

文化を共通する種としての人類の本質に照らすと、日本が世界初の人類共同体の実現を国家目標に定めても、それは決して夢物語ではない。時間はかかるが、国民が総力を挙げて事に当たればそれは成し遂げられると考えている。

「人類は一つである。人種や民族の違いはあっても同じ人間である。文化や価値観の違いはあってもわずかである」という普遍的な人間観に基づき、世界に通用する移民国家理論を極めるため精進する。

日本の精神風土に根ざした人類共同体思想が世界にあまねく知れ渡り、世界の人々を導く星として煌めく時代を視野に入れている。

### ミスターイミグレーションが創作した移民国家論

1975年に書いた『今後の出入国管理行政のあり方について』という論文が「坂中論文」と呼称されたことに始まり、私は数々の通称あるいは異名をつけられた。

たとえば、2005年に出た「入管戦記」という本の帯で「反骨の官僚」「ミスター入管」と呼ばれた。

2012年10月21日のジャパントイムズの「移民が日本を救う」という表題の記事では「移民革命の先導者」（革命家）と紹介された。

物議を醸すような外国人政策論を数多く発表し、その実現に奮闘した実績がものを言って、そのような坂中像が形成されたのだろう。

この硬骨漢イメージは私の財産である。日本を移民国家に導くうえでプラスに働くと考えている。移民1千万人構想は、「反骨の官僚」と呼ばれた元行政官の政策提言ということで政府部内で重く受け止められたようだ。日本を代表する知識人である野田一夫先生（日本総合研究所会長）から、「ミスターイミグレーションが創作した移民国家論は説得力がある」との評価をいただいた。

その一方で、移民革命で日本のビッグバンを起こそうとしている坂中英徳への罵倒が絶えない。インターネットの世界では「売国奴」「反日」と指弾されている。

このことについては、千年以上続く移民鎖国体制をくつがえそうとしているのだから、大きなリアクションがあっても当然と受け止める。移民革命の先導役として移民革命思想に殉ずる覚悟はできている。

1975年の坂中論文以来ありとあらゆる罵詈雑言を浴びてきた。その結果、非難・罵倒には免疫になっている。どんな個人攻撃を受けてもひるまない。

多くの著作をものし、移民政策分野の論客としてぬきんでた存在になったから、移民国家の議論では誰にも負けない。

国粋主義者・移民亡国論者・ヘイトスピーチのグループを説得する自信はないが、正々堂々と討論したい。決して逃げない。

国家百年の計として立てた坂中移民国家構想は100年後の日本と世界にまで影響が及ぶだろう。日本オリジナルの人類共同体思想と世界平和哲学は近未来に生きる地球人の評価にゆだねる。

#### 歴史的な移民国家ビジョンが動きだした

著作・論文の形で発表した「日本型移民政策の提言」は国民の大多数から無視されている。私の移民国家構想を評価する日本の知識人も皆無に等しい。日本の歴史はじまって以来の革命的な移民政策を主張している以上それは無理からぬことだ。大構想に対する国民の理解が得られるまでにはもう少し時間が必要なだろう。

いっぽう私の政策提言に対して違和感を覚えた日本人も多数いると想像するが、これまでどころ移民国家論を覆すような反論も、移民政策に代わる人口崩壊危機への対応策も現れない。

それが幸いした。「移民50年間1000万人計画」は無傷のまま生き残った。いまその歴史的な移民国家ビジョンが動きだした。インターネットの世界では若い世代から移民歓迎の声が上がった。私が会った世界の巨大機関投資家は日本型移民国家構想の早期実現に

期待を示した。内閣府は2014年2月、「100年間で2000万人の移民を入れる」未来構想を発表した。

以下は私の希望的観測である。国民の間から積極的な移民反対の声が出てこない状況が明らかになれば、日本のビッグバンが起きる可能性がある。つまり、国民からあまり歓迎されない移民政策が、ほかに有力な代案が見つからなければ、人口崩壊の危機を乗り越える唯一の国策として独り歩きし、政府部内で日本の百年の計と認められることになるかもしれない。

私は昨年10月、これから白熱化することが予想される移民国家論議における基本文献となることを念願して、『新版 日本型移民国家への道』（東信堂刊）を世に送り出した。この移民政策論文集の発行が起爆剤となって移民国家への道が開けることを期待する。

### 救国の魂がやどる移民国家創成論

歴史の必然や外圧で移民国家に変わるのではおもしろくない。歴史を動かす原動力は人間の意志である。日本人の救国の心が日本の国の形を変えるのだ。

わたしかいた移民国家創成論には救国の魂がやどっているにちがいない。これほど高邁な理想を掲げた建国論は世界にあまり例がないのかもしれない。100年後の日本と世界を見据え、40年の移民政策研究に裏打ちされた現実的・実践的な移民国家論である。

移民革命の究極の目標は日本民族の奇跡的復活である。日本語を話し、日本文化を愛する日本人が築いた国家制度の再生——地球文明にとってかけがえのない日本文明のルネサンスである。

問題は、私の志が詰まった移民国家構想が普遍性を持ち、国民の理解を得られたかである。日本の未来を憂える日本人が、日本文明と日本民族が地球上から消えてゆく悲劇を何としても避けたい一心で移民国家構想を世に問うた。

しかし、私の想いが国民の心にどこまで届いたかについては自信がない。人口危機が深まるなか、国民の間から移民賛成の声がほとんど上がらないのだ。移民革命思想を伝道する私の努力がまだ足りないのだろう。

人口崩壊の恐ろしさと移民受け入れの必要性について国民に納得してもらえるまで説得に努める。日本人の憂国の心に訴え続ける。

### 移民国家論の金字塔

わたしは在日朝鮮人政策を筆頭に移民政策と集中的に取り組んできた。40年間、移民政策の立案一本槍の人生を歩んだ。誰もが恐れをなして触ろうとしない移民国家大綱の立案に臨んだ。

1975年に『今後の出入国管理行政のあり方について』という典型的な政策論文を書いたことで私の進む道は決まった。それ以降、移民政策にテーマを絞って研究と実践を積み重ねてきた。

法務省を退職した2005年に外国人政策研究所(現在の一般社団法人移民政策研究所)を設立した。それ以後は、移民政策研究所にこもって移民政策の理論的研究に専念している。

移民政策関係の著書は20冊余を数える。切れ目なく移民政策論文を書き続けた。幾つかの論文は社会に衝撃を与えた。移民政策研究の白眉といえるのが、最新刊の『新版 日本型移民国家への道』(東信堂、2014年)である。

うしろを振り返ると、移民政策の立案者は私以外に現れなかった。百年の計の国家政策を立てるのは年季の入る仕事なのだろう。長年、移民政策の理論的研究と実践の分野で私の独壇場の時代が続いている。移民国家の議論が本格化し、新しい国づくりに多数の専門家の協力を必要とするわが国にとって、このような状況は決して好ましいことではない。

どうしてこういうことになったのか。最近まで政治家・行政官・研究者は移民問題をタブー視してきた。当然ながら、危険を冒して移民政策の立案と取り組む官僚や学者などは出てこない。その結果、移民政策の論客が不在の今日の事態を招いたのだと考えている。

付言すると、この10年ほど四面楚歌の状況が続いているが、そうかといって永田町、霞ヶ関から坂中構想に対する批判は一切ない。なぜか日本政府は霞ヶ関OBの異端者が主張する移民革命思想に寛大である。

昨年秋、内閣、霞ヶ関の中枢幹部たちと個別に会って、前記の著書を謹呈のうえ、移民政策のすすめ方について話し合った。官僚の世界で移民問題はもはやタブーでなくなったことを実感した。私の信頼する官僚たちは、「坂中さんの移民国家構想に賛成する。組織を動かす」と語った。官僚機構から組織として移民賛成の声はまだ上がっていないが、憂国の志のある官僚たちの間で坂中構想を支持する声が急速に高まったと感じる。

無為の人で最期を迎えたい

まさにいま、人口激減に起因する国家存亡の危機に対処するため、時代は国家の急を救う革命家を必要としている。だが、百年先を見通し、世界的なスケールで考える人物が今の日本にはいないのだ。

しかし、平成の日本人のなかに革命家がいないとあきらめるのは早い。偉大な人物はいないかもしれないが、世界のモデルとなる移民国家ビジョンを樹立した日本人がいる。危険なことには手を出さないときめこむ日本人が主流の時代にひとり移民革命を唱えて奮闘している。

さて、2014年2月13日の安倍晋三首相の国会答弁(移民の受け入れに関する国民的議論の必要性を強調)によって、移民1千万人構想が危険思想視される時代は終焉を迎えた。

その何よりの証左がある。内閣府は同年2月24日、「100年後の日本が1億の人口を保つには2000万人の移民が必要」という日本の未来構想を発表した。移民政策がおおっぴらに議論される時代がやってきた。

ようやく日本の歴史が移民開国に向かって動こうとしている。日本の移民政策研究のパイオニアとしての実績から、私はその中心に位置する。世論をリードする責任の重さに身の引き締まる思いがする。ひとりでは背負いきれないほどの重い責任をはたさなければならない。

遠大な坂中移民国家構想が各方面で議論される時代を迎え、これからどう生きるべきか、何をなすべきかについて自問自答している。

そもそも歴史的な仕事をする人間の器でないことは百も承知だ。英傑でも権力者でもない。移民政策の立案に生涯をかけたことが取り柄の元国家公務員にすぎない。今は自由人として世界的な視野から天下国家のことを論じている。

そうは言うものの、高潔の士が大きな足跡を残したことは歴史の教えるところだ。私は移民国家の建国の歴史に汚点を残すような人間にだけはなりたくない。新生国家の名誉のためにも王道を歩んで歴史的な仕事を成し遂げたいと思う。

おのを鍛え無我の境地をめざす。それは、宮本武蔵のような剣の達人が晩年に達した心境だ。剣を抜いて闘うことをやめ、剣を鞘におさめ、そこにいるだけで存在感がある「無為の人」だ。詰まるところそれは移民政策の理論的研究を極め、移民国家ニッポンの創始者にふさわしい器量を身につけ、世界に広く知られた「ミスターイミグレーション」の名前で対外的に日本を代表する存在になることだと理解する。そういう域に達することなら、修行を積めばなんとかなりそうな気がする。